

## 地方拠点都市—中小都市の発展過程と域内雇用・就業構造の変化

### [研究メンバー]

|    |      |                 |
|----|------|-----------------|
| 主査 | 仁田道夫 | 武蔵大学教授          |
|    | 山本真人 | 需要研究所リサーチディレクター |
|    | 西田 穰 | 地域計画研究所代表       |
|    | 安東誠一 | 現代地域研究所代表       |
|    | 中村 章 | 社会研究センター事務局長    |

### [報告書目次]

#### 調査研究の概要

#### I 調査対象都市の特徴

1. 十和田市
2. 日田市
3. 北見市

#### II 地方中小都市・町村における地域経営戦略と雇用・就業開発

1. 地方中小都市・町村の産業発展と雇用・就業機会
2. 地方中小都市・町村における地域活性化の動きと地域経営戦略
3. 地方中小都市・町村の発展の手がかり

(1) 経験集積のための項目リスト

(2) 調査対象都市における要因関連

#### III 事例調査結果

<十和田市>

<日田市>

<北見市>

### [内容要旨]

近年の産業構造変化や国際的連関の深まりの下で、首都圏への機能や人口の集中が再び進み、地方圏の地域経済はますます難しい状況におかれるようになっている。

地方圏のなかでも札幌、仙台、広島、福岡といったクラスの地方中枢都市では、産業構造変化に適応した発展パターンが形成される方向にある。それに対して、大多数の地方中小都市、町村では従来の産業集積が不十分であり、雇用・就業機会が乏しいために若い人たちの流出がどんどん進んでしまっている所が多い。こうした趨勢の下にある地方中小都市や町村においては、長期

的な視野をもった発展戦略を構想することが重要であり、また、地域における雇用、就業機会の開発はその一環をなす戦略的課題と言える。

この調査では、地方圏のなかでもこうした難しい課題をかかえた地方中小都市・町村を研究対象として、地域経済発展と雇用・就業開発という観点から見た現状の問題点と今後の展開の手がかりの整理を試みた。

そのための事例研究のエリアとして、青森県十和田市、大分県日田市、北海道北見市とそれぞれの後背地を選んだ。そして、統計データの分析を通じて現状の概要を把握した上で行政、特徴的な民間企業、第三セクター、共同組合、地域活性化グループのインタビューを行い、進行中の動きの具体的把握を試みた。

なお、本調査は当初は地方拠点都市を中心に研究を進める予定であったが、今日の経済環境と雇用・就業情勢において、より困難な課題を抱えているのは、地方中小都市およびその後背地であるとの認識に達し、研究の力点を中小都市におくことになったため、報告書のタイトルと内容に多少ズレが生じている。